

● 筆者紹介

Journal of Information Processing Society of Japan, Vol. 14, No. 11

戸川隼人 (正会員)

昭和10年生。昭和33年早稲田大学理工学部数学科卒業。航空宇宙技術研究所において、計算機システム、数値計算、計算機応用 (IR, 図形処理, 記号処理など), ロケットの性能解析, 構造解析などの研究に従事, 昭和46年京都産業大学に移り, 現在同学理学部教授。数値解析とシステム工学を担当している。著書に、『マトリクスの数値計算』, 『微分方程式の数値計算』, 『数値計算技法』, 『計算技術と数値計算法』 (共著), 『数値計算入門』, 『マトリックス法とコンピュータ』, 『有限要素法入門』 (近刊), 『ロボットロジー』 (分担執筆), 訳書に『理論数値解析』, 『線型計算ハンドブック』がある。日本数学会, 日本機械学会, 計測自動制御学会各会員。

米田英一 (正会員)

昭和10年生。昭和34年東京大学理学部数学科卒業。同年より東京芝浦電気 (株) において, 数値解析, システムズ・プログラミング, インストラクション・マネジメント, 設計自動化推進などユーザ・サイドの業務に従事, 現在同社経営情報システム部担当課長。オペレーティング・システム, システム評価, システム・シミュレーションなどのほか, 情報処理技術者の社会的責任, 情報公害についても強い関心を抱いている。熱烈なワグネリアーナ。本会編集委員会委員, 同文献・ニュース小委員会幹事。

岸本英八郎 (正会員)

大正5年生。昭和16年神戸商業大学卒業。同学経営機械化研究所を経て, 現在甲南大学理学部経営理学科教授・経営学博士。主著に『経営機械化技術論』 (神戸大学経済経営研究所), 『オートメーションと経営管理』 (ダイヤモンド), 『増補改訂現代経営管理論』 (中央経済), 『経営機械化の発展』 (中央経済), 『経営情報システム研究』 (ダイヤモンド), 『最近経営情報システム』 (中央経済), 『コンピュータ経営論』 (丸善), 『アメリカにみるコンピュータ経営の高度利用』 (コンピュータ・エイジ) などがある。日本経営学会, 会計研究学会, 組織学会各会員。本会規格委員会 SC 14 専門委員会委員。

石黒栄一 (正会員)

昭和13年生。昭和35年慶応義塾大学工学部電気工

学科卒業。同年より (株) 三越において, 販売面での修業を経て事務機械化のためのコンピュータ導入計画プロジェクトに参加, 現在同社本店業務部コンピュータ課でシステムプランを担当している。本会編集委員会委員。

松谷泰行 (正会員)

昭和11年生。昭和33年東京大学工学部応用物理学科 (数理工学) 卒業, 35年同大学院修士課程 (応用物理学専攻) 修了。同年より八幡製鉄 (株) において, 電子計算機関連業務に従事, 現在新日本製鉄 (株) 情報システム部企画第一課長。

鈴木秀郎

大正15年生。昭和26年商船大学卒業。同年より日本郵船 (株) に勤務, 現在同社情報システム室次長。主にコンテナ輸送システムについて興味をもち研究を行っている。著書に日経新書『コンテナ時代』 (日本経済新聞社), 『企画スタッフのためのコンピュータ』 (共著, 鹿島出版会) がある。

出居 茂

昭和4年生。東京大学工学部応用物理学科 (数理工学) 卒業。現在早稲田大学生産研究所特別研究員並びに同学商学部講師。オペレーションズリサーチの研究に従事している。著書に『OR のための基礎数学』 (丸善), 『工科の数学』 (培風館), 『経営数学の基礎と応用』 (日本生産性本部), 訳書に『システム工学』 (日科技連), 『技術者のための高等数学』, 『確率統計入門』 (培風館) がある。

中根甚一郎

昭和9年生。早稲田大学大学院商学研究科を経て, 昭和45年同工学研究科博士課程修了。現在同学生産研究所専任講師。生産システム設計法の研究に従事している。著書に『生産システム設計ハンドブック』, 『オーダーエン트리システム』 (共著, 日刊工業新聞社) がある。

TIMS, APICS, 日本工業経営学会各会員。

竹井大輔 (正会員)

昭和14年生。昭和37年京都大学工学部電子工学科卒業。同年より日本国有鉄道において, マルス105システムの開発などに従事, 現在同電気局通信課に勤務している。

井上 健 (正会員)

昭和 21 年生。昭和 44 年東京大学工学部電気工学科卒業。同年より日本国有鉄道において、マルス 105 システムの開発に従事している。

川原 裕 (正会員)

昭和 10 年生。東京教育大学理学部物理学科卒業。*NHK* 技術局を経て、昭和 38 年より *NHK* 本部経営情報室において *NHK*-TOPICS, その他の DP システム開発に従事。昭和 41 年より、日本アイ・ビー・エム (株) に移り、同社システム開発部において、コンプレックス・システムの開発、援助に従事。現在同社研究所テクノロジー第 3 機器設計担当マネジャー。

木代辰雄

大正 15 年生。日本大学工学部卒業。古河電気工業 (株) において、PCS による事務機械化をはじめとして事務改善、プログラム、システム設計、電算室運営

管理に従事。現在同社計数部計数課長。

栗木義光

昭和 9 年生。昭和 33 年東北大学金属工学科卒業。(株)神戸製鋼所において、製銑製鋼関係、QC, OR 関係の業務、また昭和 42 年の同社加古川製鉄所建設に合わせて総合生産管理システム (TOPPS) の開発に従事。現在同社鉄鋼事業部加古川製鉄所技術部機械計算室長。人間の考え方、意識などがどのような形でシステムの中に生きているか、すなわち人間の価値観とシステムの形との関係に興味をもっている。

光山治雄

昭和 7 年生。昭和 29 年一橋大学商学部卒業。現在山之内製薬 (株) システム室長。組織論、システム論、コンピュータに関する研究と論文・解説がある。組織学会会員。

研 究 会

○第2回データ・ベース研究会

{昭和48年9月13日(木), 於機械振興会館研修1号室, 出席者80名}

(1) JICST の大規模情報検索

小野脩一 (JICST)

〔内容梗概〕

日本科学技術情報センター (JICST) の業務の中核をなす科学技術文献の蓄積と検索に関するシステムについて, 現状を紹介し, 将来への必要条件を述べた。

システムの総合, ディスクファイルの採用, オンライン検索, 多種ファイルを含み, 多様な形態のサービスにたえるデータベースなどは, JICST IR システムの必要条件と思われるが, これらを実現するための問題点を, システムの再設計という観点から考えてみた。

(データ・ベース研資料 73-3)

(2) CODASYL のデータベース用共通言語

植村俊亮, 西村恕彦 (電総研)

〔内容梗概〕

CODASYL のデータベース用共通言語は, COBOL の拡張として, 1966年来開発の努力が続けられてきたが, 最近言語仕様として, ほぼ固まってきた。これは強力なデータ記述言語と COBOL データベース機能の組からなる。近い将来言語の規格化も予想される。

この言語の特徴は, (1) 現在の技術によるデータベースとして実現可能な線であること, (2) プログラム利用者による手続実現可能な線であること, (3) リスト構造を中心とし, 網構造のように複雑なデータ構造を処理可能であること, などである。

(データ・ベース研資料 73-4)

○第2回マン・マシン・システム研究会

{昭和48年9月25日(火), 於機械振興会館研修2号室, 出席者55名}

(1) デジタル・フライト・シミュレータ

梶原景範 (三菱プレジジョン)

〔内容梗概〕

研究用フライト・シミュレータについて報告し, デジタル・フライト・シミュレータにおいて, 特に問題となる数値積分による模擬系の動特性の誤差につい

て検討した結果を報告した。

まず訓練用フライト・シミュレータの概要について紹介し, 次に航空宇宙技術研究報告 TR-70「汎用飛行シミュレータ設備の計画, 構造および特性」にもとづいて製作中の研究用の汎用フライト・シミュレータについて述べた。特にハード・ウェア上の特徴であるマルチ・コンピュータ・システムとソフトウェア上の特徴である言語 (RTSL=REAL TIME SYSTEM LANGUAGE), 応用プログラム (FSPP=FLIGHT SIMULATION PROGRAM PACKAGE) について述べた。

最後に, 数値積分によって模擬された系の振舞とその動特性のずれに関して述べた。

(マン・マシン・システム研資料 73-4)

(2) 人間・機械系における表示・制御システムの設計について

柳川邦雄 (鉄道労働科研)

〔内容梗概〕

表示・制御システムの設計にあたり, 考慮すべき要件および視認性, 操作性について, マン・マシンの観点から考察した。

この種システムの設計においては, 情報系および意志決定系を中心としたシステム解析および機能設計が先行すべきものであることを示唆した。

(マン・マシン・システム研資料 73-5)

(3) ディスプレイを用いた漢字特徴テーブルの修正システム

古川茂雄, 三田順業 (日電中研)

〔内容梗概〕

手書き漢字のオンライン認識における正認識率を向上するために, 認識のときに用いられる漢字特徴テーブルをオンラインで修正するシステムを開発した。

これによれば, 修正すべき点のチェックが容易になり, また修正も短時間で行うことができる。この修正システムを用い, 5ストローク数の60字種について認識実験を行なった95%結果の正認識率が得られた。

(マン・マシン・システム研資料 73-6)

○第2回計算機設計自動化研究会

{昭和48年9月28日(金), 於機械振興会館研修1号室, 出席者50名}

(1) 汎用論理シミュレータについて

野溝文俊, 元岡 達 (東大)

〔内容梗概〕

本研究で提案した汎用論理シミュレータは LDS 言語のレベル 1 からレベル 3 を受理し, 同期回路だけでなく, 非同期回路をも対象とし, ハザートや競合の検出を行なうものである。

使用者の目的に応じて種々のモードと豊富なコマンドが用意され, 処理方法には統一性をもたせ論理テーブルを参照しながらインタープリティブに実行する方法を採用している。またレベル 2 およびレベル 3 の論理式は PL/I 言語に変換して直接実行し, 高速化をはかっている。時間の制御はタイム・マッピング法によっている。

本シミュレータは通常のシミュレーションだけでなく故障シミュレーションをも行なえる機能を有している。

(計算機設計自動化研資料 73-4)

(2) Real Time Physical Distribution Simulation Systems について 箱崎 紘 (三井造船)

〔内容梗概〕

シミュレーションは時間の関数であり, 時間の進行に対する結果の表示, そしてその評価をいかに的確にできるかが重要な問題である。本シミュレーションシステムはこの点を特に考慮し, シミュレーションの時間軸を自由に換えられるようにし, グラフィック・CRT ディスプレイを使用してシミュレート状況を刻

々と観察できるようにしたのが特徴である。

時間軸は FAST~SLOW~STOP, REVERSE と, シミュレーション実行中任意に指令でき, 統計量のチェック, モデルの変更, そして再実行とグラフィック・インターラクティブ・シミュレーションの実行を可能としている。

(計算機設計自動化研資料 73-5)

(3) IBM S/370 モデル 155 のマイクロ診断機能
松岡亜樹 (日本 IBM)

〔内容梗概〕

最近話題となっている RAS の一環として, また特に製造部門側から言えば, 組立てられたばかりの計算機をシステム・テストする場合に, 有効な故障診断方法は, その計算機の設計段階において考慮されるべき重要な部分となっている。本稿では IBM S/370 モデル 155 を例にとり, 155 で使用されているマイクロ診断について, その考え方と実際例を紹介した。

155 に限らず S/370 の各モデルでは, 通常のマイクロ・インストラクションと同じマイクロ・オーダーをマイクロ診断に用い, 数個のインストラクションを実行しては, 実行後の計算機の内容が期待値と一致しているかどうかによるテスト方法を採用している。約 90% の故障は FRU(Field Replacable Unit) 数枚の範囲で指摘することができる。これは集積回路技術の導入とマイクロ診断技術の向上による。

(計算機設計自動化研資料 73-6)

本 会 記 事

○講習会

さる9月15、16日開催の計算機設計自動化ならびに10月19～21日開催のマイクロプログラミング各講習会は、当初の定員50名、120名をそれぞれ約10名超す参加をえて盛会裏に終了しました。本講習会のため、ご多忙の中を積極的に尽力いただいた講師の方々に深く感謝いたします。また満席のため不意にも参加できなかった方々には、お詫びを申し上げます。

なお、本講習会は本会として初めての試みでありましたが、会員各位のため、もっとも up-to-date な基礎的分野について講習会を行なうことは、本会設立の目的にもかなうことでありますので、こんど、この種の講習会開催を強力に推し進めてゆく予定です。ご期待ください。

○入会者

昭和48年10月の理事会で入会を承認された方々は以下のとおりです（会員番号順、敬称略）。

〔正会員〕 高橋兼雄、工藤英男、門脇誉雄、中村タケヨ、加藤博規、山崎進、相原繁樹、奥田潤、安部季夫、行武克義、花牟礼弘幸、佐口功、遠地卓二、宮下徹、津向友好、住谷永夫、小橋史彦、山中克重、西原

孝彦、高倉良昭、林雄一郎、平沢秋声、岩本和真、高橋正、倉持矩忠、安島健治、山田成司、中原俊政、小山武夫、辻畑好秀、山田満治、小原勲、稲垣景一、桜井條太、大橋卓二、坪田秀次、森邦夫、三浦昇、仁科祐三、高田啓吉、松沢収、堀米 明、藤田政昭、杉浦充、松縄正人、青柳忠郎、田中卓史、西 賢祐、成井弦、鳥海裕、白倉俊雄、清水郁夫、吉瀬正典、田川順通、富樫建樹、有沢博、宇津宮孝一、大塚昌雄、斎藤奈保子、山口正彦、松井恒夫、五十嵐毅（以上62名）

〔学生会員〕 根岸和義、田中洋一、堤泰治郎、寺崎芳雄、吉田信博、斎藤裕美、笠松雅之、斎藤年史、鈴木洋介、加藤美治、馬場宣裕（以上11名）

○採録論文

昭和48年9月に採録された論文は以下のとおりです（カッコ内は寄稿年月日）。

川面恵司、永井隆夫、荒木裕子、加藤礼二：等高線作図の一方方法（48.7.9）

落水浩一郎、水本雅晴、豊田順一、田中幸吉：亜順序文法とその構文解析法（48.6.26）

菱沼千明：記号回路解析に適したすべての木の生成方法（48.8.13）

昭 和 48 年 度 役 員

会 長	尾見半左右
副 会 長	川田大介、穂坂 衛
常 務 理 事	落合 進、杉浦淳一郎、中澤喜三郎、大野 豊
理 事	高島堅助、辻岡 健、長尾 真、藤中 恵、水野幸男、元岡 達、和田英一
監 事	河野忠義
関西支部長	坂井利之
東北支部長	大泉充郎

編 集 委 員 会

担当常務理事	大野 豊
担 当 理 事	藤中 恵
委 員	飯田善久、石黒栄一、伊藤 朗、宇都宮公訓、恵志健良、大畑 厳、岡田康行、梶原正肆、亀田壽夫、木村 泉、樽松 明、今野衛司、鈴木誠道、首藤 勝、高橋義造、高山龍雄、棟上昭男、中西正和、名取 亮、服部幸英、林 達也、淵 一博、古川康一、穂鷹良介、三浦大亮、三上 徹、村上國男、森 敬、山田邦雄、米田英一